

市史編さんだより

第2回

『新編 桐生市史』編集委員
原始古代部会長

加部 二生
かべ にたか

「桐生の太古に夢をはせて」

私が子どもの頃の歴史年表は、原始時代から始まっていた。中央集権国家が完成する奈良時代の前は、原始時代で一まとめでした。

現在は、桐生市に住んでいた相澤忠洋さんが発見した岩宿遺跡の調査成果で明

らかにされた旧石器時代に始まり、縄文時代・弥生時代・古墳時代と続いています。しかし、驚いたことに、日本史の時代区分には、今もって明確な定説と呼べるものがないのです。

皆さんは、原始時代・原始人と聞くと、どのような

イメージが浮かびますか？

私は、粗末な動物の毛皮を身にまとい、石斧（せきふ）を担いで狩りをし、おいしそうにマンモスの肉を食べるテレビアニメの登場人物の姿が忘れられません。しかし、実のところ、マンモスは日本列島では本州にはいませんでした。また、原始人の必須アイテムとして描かれることが多い石斧も、マンモスのいた頃の旧石器時代では一時期にしかなく、きわめて貴重な石器でした。

岩宿遺跡調査品には、旧石器時代の石斧もあります。桐生市内の遺跡から出土した石斧のほぼすべては、縄文時代に使われたものです。

『新編 桐生市史』では、こうした発掘資料から、桐生市に住んでいた「太古の人類」の生きた証（あかし）を紹介できればと考えています。問い合わせは市史編さん室（☎4773335）



▶相澤忠洋さん（みどり市岩宿博物館提供）



▶新里町十二社遺跡（清掃センター建設地）出土局部磨製石斧

パチリいい顔 桐生っ子

市内に居住する3歳まで（申し込み時）の桐生っ子を募集します。

申し込み = Eメール（miryoku@city.kiryu.lg.jp）にお子さんの氏名（ふりがな）、生年月日、住所、保護者氏名、電話番号を記入し、お子さんの画像データを添付のうえ、魅力発信課（☎内線505）へ。



つかごし いと
塚越 紘ちゃん
1歳1か月
（相生町一丁目）



はやし ゆうり
林 優里ちゃん
2歳
（末広町）



そのべ
園部 ひなたちゃん
2歳6か月
（本町三丁目）

広告